

1年生が選んだ本

2年生が選んだ本

中学生向け

こちらの面は中学生向けの
本を集めています。

2年生が選んだ本

3年生が選んだ本



きみのお金は誰のため
田内学 著 東洋経済新報社

この物語は、主人公である優斗が「ボス」からお金に関する講義を受けることで進んでいきます。私は経済や金融の知識は全然なかったけれど、中学校の優斗と同じ目線で身近に分かりやすく学んでいけるので、読みやすく、理解しやすいところがこの本のいいところだと思いました。(有和中1年)



3年間ホケツだった僕がドイツでサッカー指導者になった話
中野吉之伴 著 理論社

高校時代3年間試合に出られなかった著者がサッカーを続けたいという思いから、ドイツに渡り、サッカー指導者になるまでを描いた実体験談です。あきらめずに「好き」を追求する大切さ、「居場所一つはない」という希望を感じさせてくれます。(有和中1年)



こころの処方箋
河合隼雄 著 新潮社

心の処方箋を読んで、悩むことも悪いことじゃないと思えました。「無理に笑わなくていい」という言葉が心に残りました。読んでいて心が少し軽くなりました。(有和中2年)



私が僕をやめる日
松村涼哉 著 KADOKAWA

何もかもが嫌になった主人公がある男になりまして生きていくお話ですが、なりました男には殺人容疑がかけられていて... 私は今まで、このようなサスペンス系の作品を読んだことがありませんでしたが、手に取ってみると話の中に引き込まれて目が離せませんでした。(有和中2年)



てのひらに未来
工藤純子 著 くもん出版

この物語は「戦争」について書かれています。当たり前前の生活が当たり前じゃなくなり、どれだけ今の生活が幸せか改めて知る本となりました。「てのひらに未来」はてのひらのようにこころごとく転がり、時には苦しいこともあるけど楽しいこともある、そのような物語になっています。(有和中1年)



蹴りたい背中
綿矢りさ 著 河出書房新社

「見ているだけでいい」という言葉が心に残った。好きな人をそっと見守る優しさや、伝えられない思いの切なさに共感して、自分も誰かをそんなふう大切にしたいと思いました。伝えたくても、伝えられないのはとても切なく、悲しいなと思いました。(有和中1年)



世界はとつぜん変わってしまう?
百瀬しのぶ 著 KADOKAWA

これは地震などで起こった被害やその時の状況が書かれている本です。普通に生活していても突然あたりまえが消えてしまったらと思うんだと思います。そんなことがあっても未来へ向き合い続けているということがいいなと思いました。(有和中2年)



すきもり杉森くんを殺すには
長谷川まりる 著 くもん出版

主人公のヒロの「杉森くんを殺す」という衝撃的な決意は、親友の自殺と向き合うためのそうぜつな再生の物語でした。喪失感と罪悪感から、死んでしまった杉森くんを「自分の中で終わらせる」ために行動する姿はすごく驚きました。心を立て直すヒロの必死さにごく感動しました。(有和中2年)



地球は食べ物
いきもの獲って食べてみた日記

生き物系 YouTuber であるホモサピという人が、生き物を獲って食べてみた体験をまとめた、自然科学に関する本です。僕はこの本を読んで自然に感じる楽しさを知って、世界が広がりました。あなたもこの本を読み、いつもの景色がおいしそうに見えるかもしれません。(有和中1年)



「命」の相談室
ゴルゴ松本 著 中央公論新社

お笑い芸人であるゴルゴ松本さんの少年時代の話や命についてなどの様々なことが書かれています。僕はこの本を読んで生きることや命の大切さについてあらためてわかりました。漢字の成り立ちなどを使ったり面白いで読んでみてください。(有和中1年)



国宝(上) 青春篇
吉田修一 著 朝日新聞出版

この小説は、極道の家に生まれた立花喜久雄が、お父さんの権五郎を殺され、半二郎という役者に引き取られ、歌舞伎を極めていくという物語です。この小説の面白いところは、主人公の喜久雄が様々な困難に立ち向かいながら、もう一度大きな舞台上へ上がっていくことです。(有和中3年)



発明で全部書いた
小川コータ 著 家の光協会

この本には、書名の通り、発明で生きていく方法が全部書かれています。ふだんからまわりのものを注意深く見て、改善点を探して発明するという発想法がお気に入りです。柔軟な発想ができるようになり、生活が楽しくなります。(有和中3年)



あの夏をラムネの瓶にとじ込めて
高梨愉人 著 双葉社

戦争というつらい歴史を青春と交えて描いているところが面白かった。原爆や戦争のつらさが分かった。戦争の本を参考にして書いている本だから、戦争時の女学生のこととかを知ることができた。短くて読みやすい本で、複雑な関係があるところもよかった。(有和中1年)



宇宙に花火を
松井尚斗 著 KADOKAWA

この本をお気に入りの理由は、夢をあきらめそうになった少年が、亡くなった祖父との約束を胸に、再び立ち上がるという物語に感動したからです。この本を読んで僕は、あきらめないことの大切さと挑戦してみることはとても大切ということがわかりました。(有和中2年)



夏へのトンネル、さよならの出口
八目迷 著 小学館

妹を取り戻すためにウラシマンネルに入ろうとしたカオルの姿から、私は今ある時間の大切さに気付かされた。過去ではなく今を生きる選択が、未来を作るのだと教えてくれた。大切な人と時間を大事にし、夢に向かって進みたいと思った。(有和中3年)



もしあと1年で人生が終わるとしたら?
小澤竹俊 著 アスコム

私はこの本を読んで心に残った言葉があります。それは「やらずにする後悔よりやって後悔する方がいい」という言葉です。行動をしないで後悔するのは、心にモヤモヤが残ります。しかし、行動して後悔することは学びに変えることができ自分の成長のためになると思っただけです。(有和中3年)



#真相をお話しします
結城真一郎 著 新潮社

現代の身近なテーマを扱いつつ、日常の違和感がやがて恐怖にかわる展開に引き込まれた。短編集でありながら一話ごとの完成度が高く、どの話も「真相」にノックさせられた。特に「#拡散希望」が個人的には面白かった。予想をはるかに超える結末となっていた。(有和中2年)



やさしい死神は、君のための嘘をつく
望月くらげ 著 KADOKAWA

死神が余命わずかな少女を助けるためにそばに居続けるのに、いつの間にか少女のことが好きになり、少女も死神のことを好きになるお話。少女が死神の正体を知ったときの反応が好きです。(有和中2年)



強制終了、いつか再起動
吉野万理子 著 講談社

軽い気持ちで薬物に手を出してしまった中学生の加地の物語。きっかけは誰にでも起こりうる日常の延長だった。クラスメイトのYouTubeを手伝うことになり、話が展開していきます。だんだん友達との会話がかみ合わなくなり、ドキドキしながら読める作品です。(有和中3年)



青春ゲシュタルト崩壊
丸井とまと 著 スターツ出版

高校生たちが友情や恋に悩みながら成長していくお話です。読んでいて、「悩むことは悪くない」と思えました。登場人物の苦しさや迷いに共感して、胸がぎゅっとなりました。自分と向き合う大切さを教えてくれる、心に残る作品です。(有和中3年)

2025 ARIDA Book LAND



～子どもたちのとっておきの一冊コレクション～

このリーフレットでは、有田市の小中学校に通う小学校1年生から中学校3年生までのみなさんの「とっておきの一冊」を集めて紹介しています。

さあ、このリーフレットを手に、まずは学校の図書室へ足を運んでみましょう。

今年もあなたに、自分の世界を広げる、すてきな本との出会いがありますように。

1・2年生が選んだ本

小学生向け

こちらの面は小学生向けの本を集めています。

3・4年生が選んだ本

5・6年生が選んだ本



おつきさまのパンケーキ

真珠まりこ 作/絵 ほるぷ出版
たぬきが月を見て「おいしそう」っていたらお月さまがたれてきました。たぬきがお月さま/パンケーキになりました。おいしそうです。(糸我小1年)



やきざかなののろい

塚本やすし 作/絵 ポプラ社
おもしろかったところは、やきざかなに食べられたところです。食べられたと思ったら、道にころがっているのらねごとんできて、やきざかなを食べました。絵もおもしろいのでみてください。(初島小2年)



ショートケーキになにのせる？

おおのこうへい 作/絵 PHP研究所
この本は、ショートケーキの上いちごじゃないものをのせるはなしです。うめぼしをのせたショートケーキをたべたときのすっぱーいおがおもろかったです。(宮原小1年)



かき氷

てんねんこおり 写真 伊地知英信 文
天然氷をつくる
てんねんこおりはおそとでつくられます。そんなこおりをたべてみたいと思いました。(田鶴小1年)



うろおぼえ一家のおかいもの

出口かずみ 作/絵 理論社
うろおぼえ一家の思い出しているところがおもしろいです。たてものなどしかくいものを思いうかべているからです。(田鶴小2年)



ひみつのかんかん

花山かずみ 作/絵 偕成社
ひいおばあちゃんがかんかんをあけて、むかしをふりかえるおはなしです。なつかしいものをまごに教えてあげます。たのしみだし、おもしろいです。(眞島小2年)



1ねん1くみの1にち

川島敏生 写真/文 アリス館
しゃんがたくさんあってすごくおもしろい。とくにしゃんがページの中でおきにいりなのは、きゅうしよくのしゃんがページです。おながすすみます。おもしろい。(保田小1年)



は歯がぬけた

中川ひろたか 作 大島妙子 絵 PHP研究所
いいなと思ったところは、ほのこをおしえてくれるからです。おもしろいところは、はがぬけたところへストローを入れてのむところがおもしろかったです。(保田小2年)



ルイ・ブライコ

清水あゆこ 文 齋藤孝 監修 ポプラ社
ルイ・ブライコは目が見えなくて「盲学校」という目が見えない子が通う学校について「点字」というのを学びました。そのとき点字は12つあったのですが、もっとかんたんによめるようにできるかな?とかんがえて、何年もかけて、6つぶにしました。43歳でなくなってしまうけど、わたしは、あきらめずかんがえるルイ・ブライコがすごいと思いました。(港小2年)



うんちっち

ステファニー・ブレイク 作 ふしみみさを 訳 あすなる書房
何をいってもうんちっちしかいわないから大すき。オオカミがシモンをたべたのがおもしろかった。(糸我小2年)



ねこと王さま

ニック・シャラット 著 市田泉 訳 徳間書店
すきな場面はいすをうしなっただけ、また買いたいすがキラキラじゃないから、自分たちで紙をくしゃくしゃにしてキラキラにしたのがいいなと思いました。(糸我小3年)



ふたごパンダのおくりもの

西島三重子 文 はせがわゆうじ 絵 中央公論新社
私はこの本を読んでいいなと思った言葉は「今日のしあわせはあしたのゆうぎ」、「ころがコロコロころがらうようにぎゅとだきしめよう」、「またひとつおもいあふれてまたひとつほしがながれる」という3つの言葉です。(田鶴小4年)



奇跡のパンダファミリー

NHKスペシャル取材班 小学館
パンダがもうすぐ生まれるというドキドキ感、お母さんパンダとともにがんばる飼育員さんの気持ち、パンダ愛が読み進んでいるうちにどんどん伝わってきて、自分もその場にいるような気持ちになってきて、本から目がはなせなくなってしまう。(眞島小4年)



10歳までに読みたい世界名作19巻 フランダースの犬

ヴィーダ作 那須田淳 編訳 Gakken
ぼくがこの本を選んだ理由はお話の結末です。最後、ネロという10歳の男の子とパトラッシュという老犬が死んでしまうからです。わけは、2人が死んでしまうのはかなしいけれど、さいご2人仲良く生きて感動したからです。(初島小4年)



世界一のパンダ

神戸万知 写真/文 講談社
この本は、アドベンチャーワールドで育てられたパンダについて教えてください。写真もあってパンダのかわいらしいすがたをみることができます。パンダの生活や飼育員さんの言葉を読むとやさしい気持ちになります。(港小4年)



カラスのいいぶん

人と生きることをえらんだ鳥
嶋田泰子 著 岡本順 絵 童心社
泰子さんがカラスのことについて知ろうと思ったきっかけが卵泥棒なことにおどろきました。なぜこの本を紹介したかというと、続けることの大切さ、調べることの楽しさを知ってもらいたかったからです。(宮原小4年)



なぜ? どうして? 身近なぎもん 4年生

三田大樹 監修 入澤宣幸ほか 著
私は「どうしていなりずしに、おいなりさんと「さん」をつけるの?」というところが好きです。理由は、人間ではないのに「さん」づけをするのが不思議だと思ったからです。ひょうくりする答えがのっているのせいで、読んでみてください。(保田小4年)



はんぴらり! 妖怪だらけの夏休み

廣嶋玲子 作 九猫あざみ 絵 童心社
すずね丸が笛にふういんされていたということにおどろきました。ふういんはのがわいそうだなとも感じました。そして、すずね丸以外にようかいたちがお客さんと言うことにおどろきました。全体的にもおもしろいので読んでみてください。(初島小3年)



マルガリータと森のまもの

工藤ノリコ 作 あかね書房
すきな場面はマルチェッロとマルガリータが春の女神をさがしている犬たちとあってふしぎな森を見つけた場面です。なぜかという犬たちがずっとさがしてきた森だしその森をぬければ春の女神をおとささかできて村をすくえるからです。そして自分もぼうけんした気分になれるからです。(田鶴小3年)



たか高すぎ? 安すぎ? モノのねだん事典

大澤裕司 著 ポプラ社
私はこのなねだんを書いていておもしろいと思った。30年前のたまごあたらしいたまごはかわらないだと思った。メダルは金は6万6,000円で、銀は3万5,750円で銅メダルは、330円で安く、差がすごくておもしろかったです。(糸我小4年)



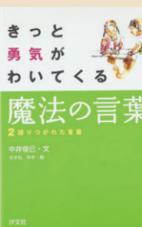
成瀬は天下を

宮島未奈 著 新潮社
この本は普通とは少し違う成瀬あかりが様々な挑戦をしていく物語です。テーマは何でもないことでも成瀬のすることは一味違うので読んでるととても面白いです。また、成瀬の友達のお崎みゆきが心の中で思っていることも成瀬とは違う平凡な感じでそのギャップがとても素敵です。(宮原小6年)



ハニーレモンソーダ 両想いという奇跡

村田真優 原作/絵 ワダヒトミ 著 集英社
ハニーレモンソーダは、自分を変えようとする子が主人公。高校に入って自分を変えようとする話です。好きな人ができたけどその人の元カノとかができて、大変だったけど、自分を変えることができた本です。ぜひ読んでみてください。(田鶴小6年)



きつと魔法の言葉

中井俊巳 著 汐文社
私は「適て改めざる、これを適とす」という、中国の思想家孔子の言葉がお気に入りです。過ちを犯すことが悪いのではなく、反省をしないことがいけない、あたりまえだけど意外と気づけないことをしっかり言葉に表して、とても心が動かされました。(眞島小6年)



あの花の咲く丘で

汐見夏衛 著 スターツ出版
主人公は今まで、どうして戦争なんかするの、とあきれていました。だけど、不思議なことに戦争時代にタイムスリップしてからは戦争の恐ろしさや、兵士の気持ちを知ってからは気持ちが変わり、戦争に對しての見方が変わったところが心に残りました。(港小6年)



ハリー・ポッターと呪いの子

J.K.ローリング 著 松岡佑子 訳 静山社
私はこの本を読んで、友情という言葉そのものかと思いました。私は、相手にどんな悪いことかあるとしても相手のことを思い合い、信頼関係をずっと続けていようになりたいと思いました。そして命がけの夢に向かって自分たちならできると夢を叶える姿がすきだなと思いました。私も将来なりたい夢に向かえばいいなと思いました。(初島小6年)



おとうさんは103さい

信友直子 作 吉田尚令 絵 さ・え・ら書房
この本の好きなところは、お父さんは今までお母さんにいろいろなことをやってもらっていて、次にお父さんがお母さんにおんがえしをしたところです。理由はお母さんが認知症になってからついさっきのことも忘れてしまっ、お父さんが家事も忘れずしっかりやるようになったからです。(糸我小5年)



余命半年の私が、消える前にしたい10のこと

丸井とまと 著 スターツ出版
この本がお気に入り理由は私が余命半年と告げられたら落ち込んでしまうけど、「夕栞」は私とは逆で半年の時間を全力で生きようとする姿が好きです。(保田小5年)



54字の物語

氏田雄介 作 佐藤おどり 絵 PHP研究所
54字で書かれた文章の謎を解いていくのが楽しいです。謎を解いて、次はどんなのがくるんだろう?とワクワクするし、謎を解けたあとの気持ちよさが半端ないです。ある研究者が作った薬を食べると反対の言葉しか話せなくなるのを解くのが楽しかったです。(初島小5年)



願いがかなうふしぎな日記

本田有朋 著 PHP研究所
この本はもしできなかつたらということを考えないで日記に書いたことを実現させようと努力しています。私はこの本を読んで、本気で努力すればいいことはきつと実現するのではないかと思いました。だから私はこれからたくさん本気で努力しようと思いました。(宮原小5年)



キキ&ララの「幸福論」

-幸せになるための93ステップ- 朝日新聞編集部 朝日新聞社出版
この本には幸せになるための93のステップが書かれています。日々の生活は考え方ひとつで自分が幸せか、幸せではないか決めることができるんです。(保田小6年)